１５．中核肉用牛農家の生産性改善および規模拡大の実現に向けた支援

中部振興局・[1] 地域農業振興課
〇安部竜司・[1] 工藤宏子

【背景・目的】

当該肉用牛経営体は親元就農後徐々に増頭し、現在では夫婦 2 名で繁殖雌牛 50 頭を飼育する中核的経営体となっている。更なる規模拡大を志向しているものの、現農場（以下、第 1 農場）ではこれ以上飼育スペースの確保は難しい上、牛舎の構造や配置に起因する作業性の悪さや衛生環境維持の困難さが生産性の低下を招いており、増頭に踏み切れない状況が続いていた。そこで生産性改善と規模拡大の両方の実現を目指し、農場の移転による抜本的な経営改善策を検討、移転実現後早期の経営安定を見据えた技術改善の取組を令和 3 年度より継続しているので報告する。

【取組内容】

(1) 事業計画の策定

本人夫婦および振興局（以下、局）、市、ＪＡ(営農､融資)で幾度も経営シミュレーションによる検討を重ね、別の場所に新農場（以下、第 2 農場）を建設して母牛管理を集約、第 1 農場は既存牛舎の利用方法を見直し子牛管理のみとし、あわせてスマート機器等の導入を行うことで、生産性の改善と規模拡大を図る経営計画を策定した。

(2) 移転後の飼養管理を見据えた技術改善

①繁殖成績の改善

・牛舎の作業性の悪さや自給飼料生産作業等への労力分散から、発情見逃し等が頻発。開業獣医師の協力のもと繁殖管理を局で支援。

・繁殖管理を自己完結できるようにするために繁殖管理システムを導入。

②子牛の発育改善

・哺育期の発育改善を目指し、スターター馴致を一連の飼養管理作業に追加、および採食しやすい飼槽への変更を提案、実践。

・さらなる発育改善のために新たな給与メニューの変更を提案。

・定期体測による発育状況の把握

③施設の作業性および衛生環境改善

・2 農場化後を見据えて第 1 農場の既存牛舎および第 2 農場内の遊休施設の活用方法を検討。これに合わせて補改修作業を支援。

【成果・残された課題】

・子牛の日齢体重は増加傾向。((去勢) R3 年 1.03kg/日→R5 年 9 月末 1.11kg/日)

・「環境や作業性が良くなった」と本人夫婦が実感できたことで、自主的に改善策に取り組むようになった。

・事業計画の進行管理と早期達成に向けた濃密指導を継続